

原発災害・住民の生命財産まもるのは自治体の責務 たちばなふみ市議一般質問②

たちばな市議は、島根原発2号機に関し規制委員会が正式合格を出した9月15日、今後立地自治体の同意が焦点だとして市の姿勢を問いました。たちばな市議は、内閣府が了承した松江市の避難計画を含む「島根地域の緊急時対応」について、実効性は審査され

ていないと指摘。実効ある避難計画とは100%市民の命と安全を守る計画だと主張。福島事故の際の渋滞の記事を示し、自身の避難訓練の経験も交え、7、8月各地で相次いだ土砂崩れなどの複合災害となれば「保育園や学校に子を迎えに行けるか、岡山や広島に安全にたどり着けるか」段階的避難についても、大渋滞が予測され「目の前に原発があるのに6キロ地点の人は待つのか」「避難先の自治体は松江市民の避難計画に本気で取り組んでいるか」など、市民の不安の声を伝えました。



たちばなふみ市議会議員

市は「実効ある計画とは被爆を最小限にすること、計画は合理的」、「持続可能な社会にはエネルギーの安定供給が必要であり、原発に頼らざるを得ない」と強弁しました。

舟木けんじ市議は9月議会一般質問で、加齢性難聴者への支援策をとりあげました。

①豪雨災害の折、広報車や屋外スピーカーの呼びかけが聞こえなかった声を紹介し、災害時に情報弱者とならないため、自らの聞こえに問題があるか認識できるように高齢者への聴力検査の促進、②新オレンジプラン「認知症施策推進総合戦略」の中でも、難聴が認知症の危険因子であり、また対策をとることで予防ができる一番大きな因子とされている。介護保険事業の中で行われている通いの場でのヒアリングや言語聴覚士の派遣し受診につなげるとりくみ、③高齢者の聞こえについて何らかの支援策をとる考えについて質しました。



舟木けんじ市議会議員

加齢性難聴者への支援策について 舟木けんじ市議一般質問②

足立保健健康部長は「災害時防災メールやテレビなど、様々な手段で伝えている。音声による情報提供は有効な手段だが、そのための聴力検査を実施することは現在考えていない」と答弁しました。

「難聴が認知症の危険因子の一つであると認識している」「通いの場に言語聴覚士などを積極的に派遣し、難聴についての相談も随時受けており、活用促進のための周知を図りたい」「国立長寿医療研究センターの研究調査で、難聴は認知機能低下と強く関連することが公表され、現在、補聴器を使用することで認知機能がどう変化するか引き続き研究されている」「市としてこの結果を踏まえて、加齢性難聴の方にどのような対策が必要か検討していきたい」と答弁しました。

市議会原発特別委員会が島根2号機を視察

9月27日、市議会原発特別委員会が開催され、午後には島根2号機の視察を行いました。

同日午後、新規制基準対応で新たに設置された防潮堤、ガスタービン発電施設、貯水槽等を視察しました。視察後の協議で田中市議は、2号機の原子炉圧力容器、格納容器は取り換えたことがあるかを質しました。



視察後の協議に臨む原特委

事故時の中電の対応が避難計画とすりあわされているか

田中はじめ市議は中国電力の北野本部長に対し「以前の質問に、事故の際、山陽から千人規模の応援を島根原発に派遣すると回答された。それだけの人数がどうやって移動し、どこに宿泊するか。避難計画と調整しているか」と質しました。

これに対し北野本部長は、「食料や車の燃料など自前で準備し、ご迷惑をかけない計画としている」と回答

防潮堤、発電機、貯水槽等を視察

これに対し北野本部長は、「交換は可能だが、経済性の問題もあり、取り替えていない。材質の変化を注視しつつ使用している」と答えました。

年に何度も浸水する地域への早急な対策を 田中はじめ市議代表質問②

田中はじめ市議は、9月議会代表質問で、繰り返す豪雨災害について取り上げ、「年に何度も浸水する地域に対する対策を早急に」と上定昭仁市長に求めました。

田中市議は、「松江市が線状降水帯の豪雨にはじめて見舞われた。この教訓を生かし、これまでの延長線上でない対策が必要。一方、何十年に一度の大雨でなくとも、ここ数年の間に、年に何度も浸水被害に見舞われている地域がある。この被害に対する対策は早急に行うことが重要ではないか」と指摘し、「地元関係者から要望として出されている川土手の嵩上げ、地域内にたまった雨水を排出するマンホールポンプの設置、自家用



早速積みなおされた土嚢

車避難する臨時駐車場の確保に取り組んでほしい」と訴えました。

これに対し、上定市長は、「当面土嚢を残置すると共に、河川からの逆流について調査し、早急に改善を図りたい」と答えました。

田中市議は再質問で、「7、8月の大雨の後、9月に振った少し強めの雨でも浸水しそうになった。せめて土嚢の積み直しは直ちにお願したい」と再度求めたところ、担当部の尽力で、より頑丈な土嚢に早速積み直されました。今後、根本的な対策の検討が求められます。